

瀬戸皖一先生からのメッセージ

総合南東北病院口腔がん治療センター長の瀬戸です。口腔がんは南アジアに多発していますが、日本でも最近急増しています。舌の側縁部が好発部位ですが、そのほか歯肉、口蓋、口底、頬粘膜にも出てきます。大抵無症状で、専門外の医師、歯科医師が診ても判断が困難なこともあります。疑わしい時には一部切除して病理検査をすることになります。

口腔内にしこり、潰瘍、赤いあるいは白い病変などがあって気になりつつも痛まないのが様子を見ている方が多くおられますが、これは間違い。早い時期なら手術や放射線治療により問題なく治りますが、進行がんになると大掛かりな手術をして病巣を郭清し、生じた欠損に対して再建手術をすることになりますが、こうなると会話する、食べる、飲み込むのが困難になり、がんは治っても社会に復帰するのが難しくなる事が多いのです。

郡山市の総合南東北病院には、陽子線、中性子線など世界最先端の粒子線治療設備を備え、腫瘍診断に必須の PET-CT を 5 台も有し、免疫治療、血管内治療、それに低侵襲外科治療などの実績が上がっていますが、私はこれをモデルとして「低侵襲がん診断治療プロジェクト」を世界に設立したいと考えています。口腔がんは中でも機能を温存する治療を一番必要としており、また日本主導でいろいろな角度から開発がすすめられているところです。

検診にて万一がんあるいは前がん病変が発見されたら、速やかに病態に応じた、また患者さんにとって最も適切な専門施設を紹介します。

気になっていることが 10 日以上治らなかつたらぜひ検診においでください。

当院では随時検診の予約をメールあるいは電話で受け付けておりますので、お気軽にお問合せください。